ぽっぽニュース

ご報告　地域医療連携室に 新副室長が就任しました。

〔就任のご挨拶〕

平素より地域医療連携室に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年７月の人事異動に伴い、大阪鉄道病院地域医療連携室に配属となりました。
不慣れな部分も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、誠心誠意をもって
精励してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

大阪鉄道病院地域医療連携室　副室長　東　宏昭

ご報告　「第 36 回あべの橋消化器病フォーラム」を開催

2019年7月20日(土)、前号でお知らせいたしました「あべの橋消化器病フォーラム」を都シティ大阪天王寺にて開催いたしました。
今回は当院の外科医、消化器内科医による講演に加え、特別講演として京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 教授・伊藤義人先生より「C 型慢性肝炎の制圧と残された臨床的課題」を演題にお話しいただき、たいへん有意義な研修会となりました。

お知らせ

「天王寺骨折治療 病診連携ネットワーク」

この秋、「骨折治療」をテーマとした研修会を下記要領で開催いたします。
ご多用中とは存じますが、ぜひご参加くださいませ。

日　　時　2019年11月14日(木)
場　　所　都シティ大阪天王寺(旧天王寺都ホテル)　高取の間
特別講演　地方独立行政法人　市立東大阪医療センター副院長　佐藤憲宏先生
「足・足関節の手術治療――骨粗鬆症合併の前足部手術を中心に――」

TOPICS　認定看護師が新たに誕生！

前号でストーマ外来担当としてご紹介した米田愛看護師が
「皮膚・排泄ケア認定看護師」資格を取得しました。
次号にてあらためてインタビューをお届けします。

＜お詫びと訂正＞
前号のお知らせ欄にて表記の誤り、開催日程の変更がございましたので謹んでお詫びし訂正させていただきます。
・第 35 回あべの橋消化器病フォーラム
　誤)第 35 回　⇨　正)第 36 回
・第 46 回病診連携による生涯教育研修会　開催日時
　誤)2019 年 9 月 14 日(土)　⇨　正)2019 年 9 月 7 日(土)

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

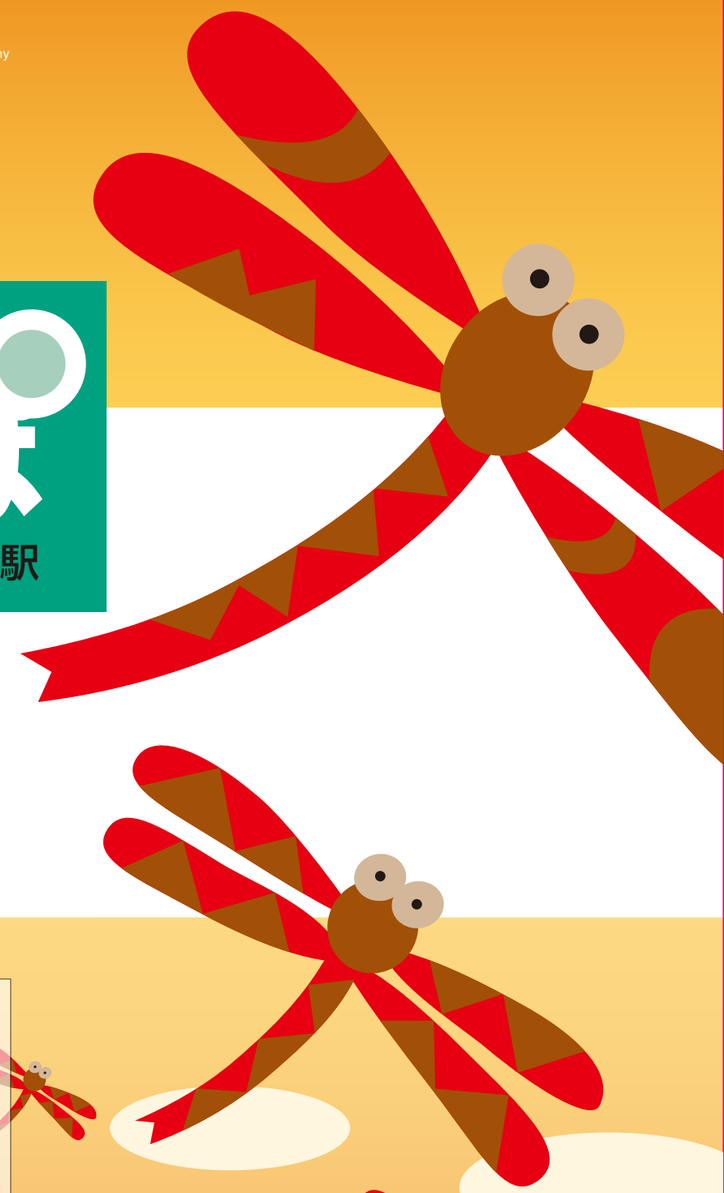
大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 1 丁目 2-22
TEL.06-6628-2221 FAX.06-6628-4707
ホームページ　http://www.jrosakahosp.jp

受付時間／午前 8 時 30 分～午前 11 時 00 分
診療開始／午前 9 時 00 分～
休診日／土日祝・年末年始（12 月 30 日～ 1 月 3 日）

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

地域連携 ぽっぽ
よりよい医療の始発駅

Vol.12
2019 September



診療科 UPDATE
循環器内科
ドクター・インタビュー
部長　成山 仁
医師／宮本 裕之　藤阪 智弘　藤原 義大
専門領域を究めるリソースナースたち
画像診断センター　大硲 真美
登録医紹介／ハルカス内視鏡クリニック
チーム医療を支える視点
栄養士室　木村 京子　上床 恵　葛山 栄里子
ぽっぽニュース

「診療科 UPDATE」

循環器内科

ドクターインタビュー

心臓カテーテル治療の第一線で
経験を積んできた成山部長のもと、
今春、2名の新任を迎え、
さらに充実した循環器内科。
さらなる対応力を発揮し、
地域医療に貢献してまいります。

豊富な経験と高い志をもって循環器疾患全般をカバー。患者さんとそのご家族に寄り添う医療を実践する。

部長

成山 仁（なりやま じん）

1990年大阪医科大学卒業後、同大学附属病院第一内科にて臨床研修。大阪府立成人病センター第一内科、大阪医科大学附属病院第一内科専攻医、同助手を経て2007年大阪鉄道病院循環器内科に部長として赴任。日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本インターベンション治療学会専門医。

高度な診察と治療を提供

当院に赴任して約 12 年、循環器疾患全般の診断と治療に取り組んできました。私自身の専門は、経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術等、種々のカテーテルによる血管形成術です。患者さんの治療と同時に、後輩の育成にも力を入れてきました。

ご存知のように、社会の高齢化や食生活の変化によって、循環器疾患は増加の一途をたどっています。特に近年では高齢化のさらなる進展にともない、虚血系心疾患と心不全の患者さんが圧倒的に多くなっています。当院ではそれらに対応するため、医師4名の外来2診体制で対応しています。

虚血系心疾患に対しては、CT や冠動脈造影による形態評価だけでなく、トレッドミルや心筋シンチグラフィなどの精査の上でインフォームドコンセントを行ない、カテーテル治療を行っています。

検査においては、心臓超音波検査、トレッドミル運動負荷検査、ホルター心電図、ABPM（24時間血圧計）、心臓核医学検査（運動負荷、薬剤負荷）、心臓 CT および MRI、血管造影（冠動脈造影や治療）など、循環器系のほとんどの検査が可能です。また、最新の 320 列 CT 導入によって、より簡単により正確な診断が可能になっています（右頁上、コラム参照）。

このほか、ペースメーカー外来では、徐脈性不整脈治療に欠かせないペースメーカーの植え込みや交換を行なった患者さんのフォローを続けています。いずれにおいても大病院にひけをとらないレベルの医療が実践できていると自負しています。

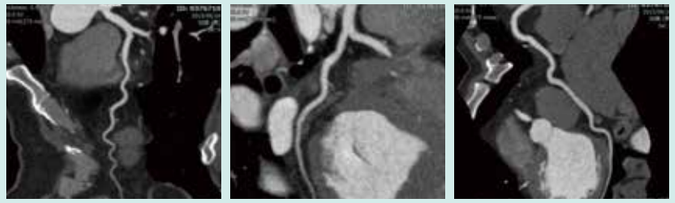
最新機器を活用した検査

冠動脈病変を診断する検査として、冠動脈 CT が主流になっています。当院画像診断センターに備える 320 列の CT はわずか数秒でスキャン可能であり高解像度の画像が得られます。また、従来に比べて被爆線量と造影剤の量を少なくすることが可能になりました。

当院では虚血評価として心筋シンチを行っており、CT の結果と合わせることで冠動脈の狭窄に対して治療が必要かどうかの判断も行えます。

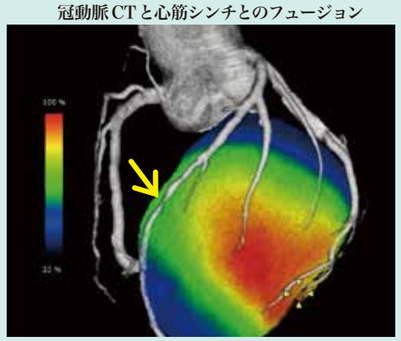
Volume Rendering 像

Curved Multi Planar Reconstruction 像



320 列 CT

冠動脈 CT と心筋シンチとのフュージョン



心臓カテーテルに取り組み 28 年

私自身が最初に心臓カテーテルに出会ったのは、今から 28 年前の研修医の時です。まさに黎明期で、現在では治療の主流となっているステント留置術が日本ではまだ治験中という時代でした。しかし、生命を司る心臓を相手に、遠隔操作で低侵襲による治療を可能にする手技を初めて目にした衝撃は忘れられません。「こんな凄い治療を手がけられるようになりたい」と、研修終了直後から心臓カテーテルを専門に手がける病院で修業しました。こうして早い段階から関わってきたことで、カテーテル治療の変遷を直に経験することができました。

当時からのことを考えると、技術の進展、特に道具の進化には目を見張るものがあります。縮小化が進み、通過性などのクオリティも格段に上がって、より安心安全な手技が可能となりました。今まで培った経験をもとに今後も患者さんの治療にあたっていきたいと思います。

プロフィール +α

学生時代はサッカー、医師になってからはゴルフに明け暮れていましたが、大学を離れてのちは運動から遠のいています。最近はむしろインドア派になり、海外ドラマにはまっています。なかでもSF系が好きで、いったん見始めるとシリーズものでも時間を忘れて没頭してしまいますね。

患者さんの背景まで見据えた治療を

現在は充実した設備機器に加え、技師をはじめとするトレーニングを積んだ優秀なスタッフに恵まれ、良好な環境で検査や治療ができることを幸せに思っています。

ただ、誤解のなきようにお話しておきたいのは、心臓カテーテル治療は、私の専門ではありますが、あくまで選択肢のひとつと考えているということです。よほどの急性期でない限り、一番大切にすべきは、時間をかけて診た上で、患者さん、ご家族、その生活背景までを把握して、患者さんのご年齢やご要望に応じた治療を実践することだと思っています。命の危険と隣り合わせの疾患でもありますから、どんな時も丁寧に説明して選択肢を提示し、十分に納得していただくことを基本としています。

当院循環器医療のさらなる発展へ

今後も、患者さん一人一人に対応し、迅速かつ手厚く丁寧に検査や治療を行ってまいります。救急対応に関しても、より多く受け入れていきたいと考えています。特に登録医の先生方からのご紹介には、積極的にお応えしていく所存ですので、時間外でもお気兼ねなくお声がけください。

また、現在、手術の必要な症例は、近隣の心臓血管外科と綿密に連携して紹介し、術後の管理は当科にて行っています。いかなるケースでも、安心しておまかせいただけるよう全力を尽くします。さらには今後の循環器医療の進化に対応する新たな取り組みへの夢を育みつつ、一同力を合わせて、真摯に歩み続けてまいります。

「診療科 UPDATE」

循環器内科

ドクターインタビュー

マンパワー向上で、循環器医療のさらなる充実へ。

この春から豊富な経験を持つ藤阪医師も加入。より充実した体制で、
迅速に安心の医療を提供します。

成山　仁　　藤阪　智弘　　宮本　裕之　　藤原　義大

循環器内科
＜医師紹介＞

さらにレベルアップして、ご期待にお応えしてまいります。

副部長　宮本 裕之（みやもと ひろゆき）

プロフィール＋α

中学・高校と卓球に熱中し、選手として身を立てたいと思ったほど。当時から通っていた卓球場へは今でも通い、試合にもエントリーしています。私が学生時代、指導してくれていた人々もいまや 70 代、80 代ですが現役でプレイ中。プライベートで患者さん世代の思いや悩みが伺えることも仕事に役立っています。

1975 年兵庫県出身。2002 年大阪医科大学卒業後、研修医を経て日生病院、大阪医科大学循環器内科、大阪府三島救命救急センターを経て 2007 年より大阪鉄道病院循環器内科に。2018 年より現職。日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本循環器学会認定循環器専門医。

成山部長とともに赴任し、当院の循環器医療全般に携わってまいりました。なかには 90 歳以上という超高齢の患者さんも珍しくない分野であり、何よりかかりつけ医である登録医の先生方との協力体制が欠かせないと実感しています。患者さんにはできる限りご自宅で安心して過ごしていただけるよう、手厚いマネジメントを実践していきたいと考えています。

手前味噌ながらも、当院のスタッフは、患者さんに親身でやさしいと自負しています。私自身、「病気を診るよりも人を診る」ことをモットーに、たとえば入院患者さんは毎日顔を見に行き、またご家族も含めてサポートしていくことを心がけています。そういった人と人とのぬくもりのある関係を育める環境にあるのが、当院の魅力だと思います。

この春には新任として、久々にベテラン、実は私と同期の藤阪医師が来てくれたので、非常に頼もしく思っています。やさしく手厚い医療というベースはそのままに、これまで以上のキャパシティが備わっておりますので、救急をはじめ、より安心してご紹介いただけるかと思います。同時に個々の循環器内科医としても、この機にさらにスキルを高めるべく励んでまいりますので、どうぞ今後の展開にもご期待ください。

登録医の先生方との連携で患者さんの人生を支えたい。

医長　藤阪 智弘（ふじさか ともひろ）

プロフィール＋α

趣味は旅行。休みがとれれば、夫婦で日本各地の温泉を訪ねています。美しい景色に美味しい料理、温泉は、日常を離れて味わえる癒しの時間ですね。今まで行った中では箱根が最高でした。

1977 年大阪府出身。2002 年大阪医科大学卒業後、研修医、南大阪病院、大阪医科大学循環器内科、大阪医科大学健康科学クリニックを経て 2019 年 4 月より大阪鉄道病院循環器内科に。日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医。

4 月に赴任しましたが、病棟スタッフ外来スタッフともに病気への理解も深く、部長、副部長の指導も的確で、とても働きやすい環境です。赴任前の 2 年間は健診部に勤務していて患者さんが働き盛りの世代でしたが、こちらではご高齢者中心になりました。しかし私はもともと曽祖母まで一緒の大家族育ち。ご高齢者の対応には自信があります(笑)。患者さんが言葉には出せないけれど求めていることまで汲み取って対応できるよう、コミュニケーション力をさらに磨いていきたいと思いますし、それが医療に求められる大きな要素であると確信しています。

その意味で、看取りもまた、避けては通れない体験です。私は研修医の頃に祖父を看取りましたが、その時の担当医の先生のご対応が見事で、最期の時間がとてもやすらかで家族も納得のいくものになりました。そんなふうに、一人一人の人生に寄り添える医師になることが目標です。同時に、地域の先生方が当院に患者さんをご紹介くださる時も、お考えをしっかり汲み取り、望みをかなえてまたお元気になってお戻しするというリレーを通して信頼を重ね、地域医療に貢献していきたいと思います。

循環器全般を網羅する幅広く奥深い知識と経験を。

医員　藤原 義大（ふじわら よしひろ）

プロフィール＋α

最近になって、ジムに通い始めました。患者さんに運動をすすめる手前、自分が何もしていないのはまずいなと思ったのがきっかけです(笑)。がんばって続けたいと思います。

循環器内科医を志したきっかけは、循環器内科で研修した時、ベッドに起き上がるのもままならなかった患者さんに的確な治療を施すことで、劇的に回復され歩いて帰られるのを見て衝撃を受けたこと。この春に当院に赴任し、初めて外来を担当させていただくようになって数カ月、まだまだ毎日が無我夢中のうちに過ぎていきます。教わることは山ほどありますが、なんといっても憧れるのは諸先輩方の、ひとつの症例に対して提案できる治療方針のバリエーションの豊富さ。私自身も勉強と経験を重ねることで、患者さんにご満足いただける診断、治療ができるよう、引き出しをたくさん持てるよう精励する日々です。まだまだ至らないところもあるかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

循環器内科 DATA 主な検査・治療実績(平成 30 年度)

＜主要診断群分類＞(退院患者数)

狭心症、慢性虚血性心疾患	201
心不全	122
徐脈性不整脈	24
急性心筋梗塞(続発性合併症を含む)、再発性心筋梗塞	13
閉塞性動脈疾患	11
肺炎等	8
頻脈性不整脈	7
誤嚥性肺炎	6
肺塞栓症	5
敗血症	4

＜カテーテル関連＞(件数)

冠動脈造影	182
冠動脈インターベーション	64
末梢血管インターベーション	2
ペースメーカー植え込み	26
その他	26

＜その他検査＞(件数)

心エコー検査	3,307
トレッドミル	711
ホルター心電図	437
心筋シンチ	304
冠動脈 CT	188

Expert！ 専門領域を究めるリソースナースたち

当院の専門分野で活躍する看護師をご紹介いたします。

画像診断センターにおける看護師の役割

画像診断センター **大硲 真美**

現在、画像センターには十数名の看護師が専任として勤務し、チーム医療に携わっています。大きく分けて放射線と内視鏡、ふたつの分野の専門性の高い検査や治療にローテーションで入るため、幅広い知識と対応力が求められます。

たとえば今回巻頭で特集された循環器内科との関連でいえば、放射線室で火曜・水曜・木曜を血管検査・治療の日にあて、心臓カテーテル検査や血管治療、ペースメーカーの埋め込みや電池交換などを行なっています。特に心臓の血管治療はリスクも低くありませんので、不安を抱えて臨まれる患者さんが大半です。お一人お一人にリラックスして検査を受けていただけるよう介助し、細かなご要望にお応えするとともに、少しの変化も見逃さないようフォローするのが看護師の仕事です。検査前には患者さんの既往歴を確認し、たとえば腰の手術経験のある患者さんなら腰痛が出ないように体勢を工夫するなど、その方に応じた配慮をするよう心がけています。患者さんとのコミュニケーションにできうる限り時間をとり、手厚い看護が実現できるのは、当院ならではの魅力と実感しています。

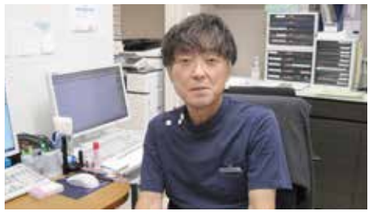
もちろん、安心安全に検査や治療を行うために、医師、放射線技師、臨床工学士とともにチーム一丸となった取り組みが欠かせません。当院はその意味でも、スムーズな連携のもと、質の高い医療が提供できていると自負しています。

チーム医療を推進する画像診断センタースタッフ

登録医紹介

医療法人愛恵会 ハルカス内視鏡クリニック

標 榜 科：内科／消化器内科／内視鏡内科
住　　所：〒545-6022
大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43 あべのハルカス 22F
電話番号：06-6623-2242　https://714kyo.com
アクセス：大阪メトロ、JR「天王寺駅」、阪堺電車「天王寺駅前」、
近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」直結
（あべのハルカス 22F メディカルプラザ内）



院長・医療法人愛恵会理事長　大澤昭朗先生

── 御院についてお聞かせください。

今年２月、東住吉区にあります医療法人愛恵会大沢クリニックのサテライトとしてオープンいたしました。内視鏡専門クリニックとして、胃がん大腸がん撲滅を目標にがんばっていきたいと思っております。地域の先生方のお役に立てるように励んでまいりますので、ご紹介よろしくお願いいたします。

──日々の診療ではどういったことを心がけておられますか。

患者さま第一をモットーに、検査前には納得のいく説明、検査後にはわかりやすい説明を心がけております。紹介患者さまにはご本人は勿論のこと、紹介元の先生方にも納得のいくお返事をさせていただきます。

──大阪鉄道病院へのご要望、メッセージをお願いいたします。

交通のアクセスの良さ、綺麗な施設、医療の質の高さで患者さまの人気がとても高い病院と感じております。これからも当院との病診連携をよろしくお願いいたします。

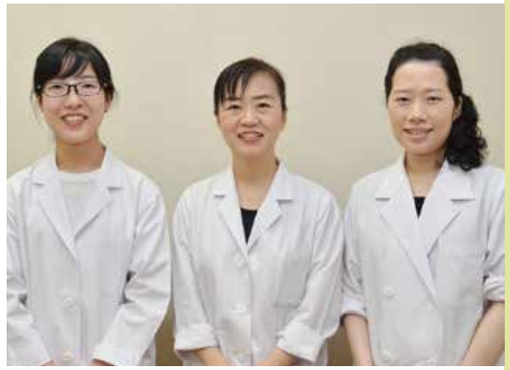
医療法人愛恵会の取り組み

① 女性医師就労支援活動
② プロゴルファー　村山　駿選手の公式スポンサー
③ 小児科クリニックの開設準備

MEDICAL POINT

チーム医療を支える視点

栄養士室



大西正芳室長のもと、３名の管理栄養士が揃う栄養士室。主な業務は入院患者さんに対する給食管理と、入院・外来患者さんに対する栄養指導・相談ですが、幅広く奥深い専門知識と対応力で、活躍の幅を広げています。

入院食事の管理について

副室長・管理栄養士 **木村 京子**

入院中の食事は治療の一環であるという前提のもと、患者さんに少しでも喜んでいただける食事の提供を目指し、献立や調理にこだわりを託しています。調理を担当する委託会社とはミーティング等コミュニケーションを密に取り、栄養はもちろん、味付けのバリエーションや提供方法など、入院生活の中での楽しみにしていただけるよう、工夫を重ねています。特に当院では、「行事食」として特別予算が設けられており、より豪華で充実した食事を提供しています。管理栄養士としても、やりがいがあり励みになります。日々の病院食を含め、患者さんの満足度調査でも常に高い評価をいただいています。

七夕の行事食（普通食）
このほかお月見、クリスマス、お正月（3が日）、ひな祭りに行事食をお出ししています。

NST（栄養サポートチーム）の活動

管理栄養士 **上床　恵**（NSTメンバー）

当院では、栄養障害の早期発見、栄養療法の早期開始、合併症の減少などを目的に、医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士の多職種メンバーでNSTを構成しています。週に一度、栄養状態や食事量が落ちている患者さんを中心にラウンドとカンファレンスを行います。メンバー全員で患者さんのもとを訪れ、声かけするだけでも食べられなかった患者さんが食欲を見せるなどの効果があることも少なくなく、行動そのものに手応えを感じています。

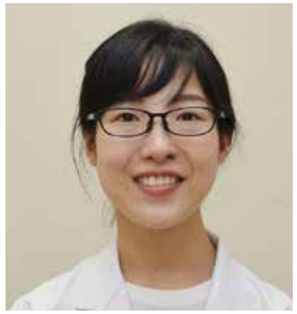
NSTによる病棟回診

＜集団栄養指導＞
糖尿病の患者さんを対象に、「糖尿病教室」や「あさがお会」などの活動も定期的に行い、栄養士も参加しています。

毎週金曜日に開催している糖尿病教室

緩和ケア病棟の食事

管理栄養士 **葛山 栄里子**（緩和ケア病棟担当）



緩和ケア病棟では、少しでも長く口から食べる楽しみを継続していただくことが一番の目的です。それが生きる喜びにつながっているということを、あらためて実感する日々です。入院時には患者さんご本人やご家族から嗜好をお伺いし、看護師とも相談しながら食べられるものを食べられる形態でお出しするようにしています。たくさんのメニューからお選びいただける「セレクトメニュー」の日や、おやつの提供などもあり、たとえ量は少なくとも「食べたい」という気持ちを引き出し、お応えすることに力を注いでいます。

栄養指導・相談のみのご紹介を受け付けています。

当院栄養士室は地域に根ざし、食生活に関するお悩みや疑問などを気軽にご相談いただける存在でありたいと願っています。登録医の先生を通じて患者さんの栄養指導・相談のみのご要望も承りますので、どうぞご活用ください。